

環境にやさしいアスパラガス栽培への取り組み

鹿本地域のアスパラガスは、約 40 年前に水田の転作品目として栽培が始まり、R5 年産共販実績で 89 戸の農家が 13.6ha を栽培する地域の主要作物です。しかし、近年は高齢化など担い手の不足により、作付け面積は減少傾向にあります。また、野菜の中でも窒素施肥量が多いため環境負荷が大きく、各種資材の高騰に伴う生産コストの増加が懸念されます。

そこで鹿本地域では、令和 4 年 6 月に「農業の新しい技術」で発表された被覆尿素肥料を利用した展示ほを実施しています。この技術は、収量や品質を確保しながら窒素施肥量を 3 割削減することができる技術として開発されました。

現時点での展示ほの収量(収穫開始～6月)は、対照区と変わらない結果となっています。鹿本地域で新しい技術として定着できるように、今後も関係機関と協力して収量やコスト低減効果について検証を行っていきます。



試験区（左）と対照区（右）の様子



生育調査の様子